

軸

日本人はと

かく「聖地」

好き。恋人、

野球、純愛、

地

めがね、愛妻家……。恋愛ものが目立つのは、どこかしらロマンチックなムードを醸すからか▲全国100カ所を越す、おなじみの「恋人の聖地」。県内では伊予市のふたみシーサイド公園など3カ所が選ばれている。瀬戸内しまなみ海道は「サイクリングの聖地」として売り出し中だ▲高知県にも新たな聖地がデビューした。南国市の後免町にちなんだ「謝罪の聖地」。何やら負のオーラを感じるが、初イベント「ごめんな祭」では、40人が叫ぶ「ごめんなさい」が笑いを誘った▲一方で謝罪の言葉をなかなか口にしない人がいる。政治家もそう。「真摯に受け止める」「反省すべきは反省する」。謝罪のようで謝罪ではない。南国市観光協会ホームページは「ゴメンの先にはハピネスが待っています」とうたう。政治家の言葉の先は、さて▲「ごめんとありがとうを素直に言える優しい町に」「ごめんの次はありがとう」。高知県出身の漫画家やなせたかしさんは、心和む二つの言葉に思いを託す。土佐くろしお鉄道の後免町駅は、またの名を「ありがとう駅」▲後免駅の次にあつたのだから、やなせさんが提案した。「ひびきあつふたつの美しい言葉 ごめんごめんありがとうありがとう」とうたう。駅舎を彩る直筆の詩が温かい。謝罪の聖地は「感謝の聖地」でもある。